

ふるさとへの便り— 60



在京雫石町友会 会員 **富楽フミ子さん**
(旧姓・橋本)

波乱万丈の生い立ちに感謝

私は8人兄弟の末っ子として生まれました。貧乏な家庭だったので子供の頃から波乱に満ちた人生でした。酒好きの父親（龍男）が酔って帰った時は母を守るのが父から溺愛されていた私の役目でした。小学1年のとき、母から突然今日からよそ（近所）の家の子になりなさいと言われ、言われるがまま何日か過ごしていたが、学校帰りには実家の前を通って帰宅するわけで、とうとう実家に帰ってしまいました。母としては我が子を少しでも裕福なところで生活させたい思いだったと思いますが幼い心にもせつないものでした。

幼馴染みのキヌエさん（福田こうへい氏の母）とはたくさんの思い出があります。小学校時代は踊りをしていて、友達4、5人で学校の講堂で踊りの発表会をしました。企画から学校との交渉、踊りの指導などすべてキヌエさんがやってくれて意志の強い子でした。

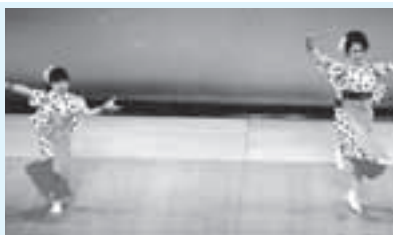
また岩手山登山、松島の修学旅行、小岩井農作業と思い出もなつかしいです。

中学時代は姉（杉下タマエ）の嫁ぎ先で3年間お世話になりました。早朝から農作業で多忙な時は姉に代わって小さい子供の世話、朝ご飯を作ってから学校に行き、下校後も子供の世話、夕ご飯を作ったりもして、私の辛

抱強さはこのころに鍛えられたようで今思えば感謝です。15才の春、中学卒業と同時に集団就職で日立製作所に内定していました。しかし母親が心配して反対され、結局、民謡歌手もしていた長兄（馨）の働いている千葉県野田のキッコーマン(株)で働くことになりました。ここでも私の波乱の人生は続き、ある日会社重役宅に養子に行けと言われ、行ってみるとあまりの生活環境の違い、ことばの問題、豪華な家には心の安らぎもなかった。他にもお見合いの話が何件もきたので、私は人生の決断をしました。人からの受け身の人生でなく思いのままの道を進もうと、当時いい関係だった職場の人（夫・喜一郎）と駆け落ち同様に家庭を持ちました。人生で自分の意思で行動できたのは初でした。その後の生活は苦勞しながらも何とか頑張り、子供二人孫6人に恵まれて、趣味の踊りをみがきながら、現在は孫と同じ舞台上で踊るのが楽しみであり、生きがいです。兄妹も半数は亡くなりさみしいですが、すぐ上の兄（昇）とは何かと言い合いながら仲良く面倒をみて貰い心強いです。たまに故郷に帰り実家近くの岩手山を仰ぐと、なんとすばらしく、さわやかな昔の空気を感じます。



鶯宿温泉での「いとこ会」（前列左端が本人）



孫との
舞台共演



江の島にて
夫と姉と

昭和23年野中行政区生まれ。千葉県松戸市在住。
下長山小学校—西山中学校—キッコーマン株式会社
趣味資格：日舞師範、津軽民舞踊増田龍師範、新舞踊嵯峨野流師範。